

各科目概要

★「大学」欄は科目の提供大学・機関を示し、略称「工、府、医、機」は、「工」：京都工芸繊維大学、「府」：京都府立大学、「医」：京都府立医科大学、「機」：京都三大学教養教育研究・推進機構を示します。

★授業目的区分（○は該当するもの、◎は特に強調するもの）

A：人文・社会・自然の諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てる。

B：世界の人々の多様な生き方を感じ、人としての豊かな感性や倫理観を拡張する。

C：日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟する。

■ 人間と文化

《人間と歴史》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
哲学	工	伊藤 徹	後	<p>哲学と呼ばれた知の営みがどのようなものであったのか、西洋哲学に限定するかたちではあるが、それが発生した古代ギリシアから、現代に到るまで、できるだけ通史的理解が可能になるよう、トピックを選んで解説する。</p> <p>具体的に登場する固有名詞を挙げれば、イオニア自然哲学、ディオニュソス教とピュタゴラス教団、パルメニデス、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、トマス・アキナス、オッカムのウィリアム、デカルト、カント、ニーチェ、新カント派、ディルタイ、ヴィトゲンシュタイン、オースティンなど。</p>	<p>哲学は、そもそも「知を愛し求める」という人間の基本的な姿勢を意味しています。「愛し求めること」は、答えという終決をもちません。哲学の歴史を振り返ることによって、答えのない問いと、それを問い続けることの重要性を学び、現代に生きる私たち自身の在り方を振り返る機縁としてほしいと思います。</p>	○	○	
比較宗教学	工	長岡 徹郎	前	<p>宗教は人類の歴史において、生活、政治、民族のあり方に至るまであらゆる人間の営みの精神的根幹をなしており、科学万能の現代においてもその死生観や儀礼などの宗教性は人々の日々の暮らしを支えているのみならず、民族間の宗教的対立は絶え間のない国際紛争の温床ともなっている。では宗教とは何か。宗教とは複合的かつ多面的な形態をもった現象であり、厳密に定義することは難しい。この講義では、映像や統計など様々な資料を交えながら諸宗教を比較することを通して、広い視野から宗教についての確実な知識を持つことによって、グローバルな宗教問題に対応する力を養うとともに、宗教理解を深めることを目標とする。</p>	<p>現代において、宗教はどのような存在意義を持ち得るのでしょうか。多くの日本人にとって宗教とは馴染みのないものかもしれませんが、初詣やお盆、クリスマス、さらには最近話題のハロウィンに至るまで、宗教は無意識のうちに我々の日常性に溶け込んでいるのです。この授業が皆さんにとって、宗教とどう向き合えばよいか考え直すきっかけになることを願います。</p>	○	○	
宗教と文化	医	田中 純子	後	<p>14世紀ほぼ60年間続いた動乱の南北朝時代は、社会の各層の人々を否応なく巻き込み、社会や人々に変化をもたらし、多大な影響を及ぼしました。中でも新たに台頭してくる芸能の動きとそれを担う人々、特に名前に「阿弥陀仏」の付く「阿弥」号者の活動は、注目されます。宗教の支配及び加護からぬけだそうとした芸能者は、京都の新たな主人となった足利将軍との関係を深め、更には室町時代の文化創造の一端を担うこととなります。授業では、社会の大変革期である南北朝期と次に来る室町時代の社会変化を検討しながら、芸能の発展及びそれを支えた芸能者の活動について考えます。</p>	<p>中世後期に花開いた室町時代の文化は、その後、更に洗練されて現代へと継承され、日本独自の文化とよばれるようになります。能然り、狂言然り、床の間と床の間飾り然り、喫茶然り。現代社会に息づいている日本の文化・歴史を再認識し、中世の人々の思いに触れて、人々の置かれていた時代を感じてほしいと思います。</p>	○	○	
日本史	工	鬼頭 尚義	前	<p>高校までに学習してきた日本史は、主に「為政者の歴史」である。もちろん、「為政者の歴史」も事実であるが、それだけが真実ではない。本講では、教科書に載っている有名な「歴史的事項」を別の側面から迫ることで、新たな見方を提供したいと考えている。もちろん、高校で日本史を勉強してこなかった学生の受講も歓迎する。</p>	<p>歴史＝真実だと思っている人にこそ、受講してほしいと思います。「別の側面」から眺めることで、新たな「事実」が浮かび上がってくるかもしれませんよ。受講生の積極的な意見、教員をある意味「困らせる」ような意見を待っております。</p>	○		

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
東西文化交流史	工	オーガスティン・ジョナサン	後	漢王朝とローマ帝国の時代から冷戦後まで、東西の外交関係は、常に複雑で崩れやすいものであった。今日の国際事情に精通するには、中国と欧米の外交ばかりではなく、歴史、芸術、宗教的な基盤の差異を理解する必要がある。 この授業では多様な視点から、東西軸の基盤を分析し、相対的な人間学を探究する。	二十一世紀は、商社やマスコミ関係の仕事に就かなくとも、米中欧関係の変化を学んでいく必要があります。世界の食料輸出国でもあり、大量の国債を保有している中国と良好な関係を築いていくには、まず東西軸の基盤を見直すことから始めなければなりません。 この授業では、東西思想の相違点と共通点を分析しながら、より相対的な歴史観を身につけていただきたい。	○	○	○
アジアの歴史と文化	府	岡本 隆司	前	中国の歴史は、歴史学の標準モデルとなっている西洋史や日本史とは、共通する面ももちろんながら、きわだった展開の相違を示す。われわれの常識では一概にはかりしれない現代中国の様相を理解する上でも、そのあたりの事情を歴史的に理解するのは不可欠である。 その中国史のうち、最後にして最大の王朝であり、東アジア全域を支配した清朝の興亡は、現代中国そして日本を含む現代東アジア形成の原点をなしている。これを知ることは、現代世界を理解するうえでも欠かせない。本講義では、さまざまな視角から、17世紀から19世紀までの清朝の歴史を概論し、中国に対する構造的な理解を深める。	日本を含む東アジアは、つねに中国との関係のなかで歴史が展開してきました。目前の現代も同じでしょう。良きにつけ悪きにつけ、中国を抜きにして、日本の進路は考えられないのです。 その現代の中国を、直接する歴史から考えてみようとするのが、この講義です。眼前の情報だけにまどわされない中国観・世界観を養う一助になればと思います。	○	○	
ヨーロッパの歴史と文化	府	川分 圭子	後	近世・近代(16-19世紀)の欧米世界の歴史を講義する。ヨーロッパだけでなくアメリカ世界も対象とし、政治・経済・宗教・社会の諸側面を取り上げる。教科書2冊を使用し、各回1章ごとに進むことを目標とする。高校で世界史を受講しなかった学生に、学習しやすい内容・レベルをめざすが、教科書は研究入門的なものである。歴史を専門とする者に対しては現在の日本人による研究がどの程度進められているかなどについても説明する。	欧米の近世・近代史は、現代世界を理解する上で不可欠の知識です。また、数十年、百年、数百年といった時間がたつと社会やものの考え方はどのように変わるのかという長い時間の感覚を持つことも、生きていく上でとても大切です。今の日本の価値観を絶対のものとして、昔や他の地域の価値観を理解し将来をも見越す力を持つためにも、歴史を学びましょう。	◎	○	
科学と思想	工	林 哲介	後	西欧古代以来の歴史において、学問・科学の誕生と発展は、哲学・思想の歩みと深く関わっている。哲学・思想の展開が学問や科学を生み、また学問・科学の発展が哲学・思想の新たな展開をもたらす。そして言うまでもなく、両者は産業・経済・社会の動態と密接に関わっている。この授業では古代ギリシャ以来の西欧における哲学・思想と学術の歴史から、代表的な事象を取り上げながら、科学・思想と社会の変遷の相互作用を検討する。そして、日本の近代化や日本人の意識を比較して分析し、現代社会の課題を考察する。	ここで「科学」と呼んでいるのは自然科学だけを指しているわけではありません。学問の発展を中心に歴史を科学的に分析します。学問・思想の歴史を概観すると現代社会の到達点と課題の理解が深まり、そして自己のアイデンティティ(思想)の形成につながります。一方的な講義はなるべくしないことにします。適宜グループをつくって、各回のテーマごとに用意する資料を参考に発表と意見交換を行い、これらをまとめて理解を深めるような授業にします。	○		◎

《文化・芸術》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
ラテン語	医	松本加奈子	後	ラテン語の初歩を学びます。古典語ではありませんが、現在でもa.m.(午前)やp.s.(追伸)といった略語、自動車などの機械類の製品名で目している語も少なくないでしょうし、何よりも、ヨーロッパ諸言語のルーツを知ることで、英語を初めとする西欧諸言語の習得に役立つだけでなく、アルファベットの羅列に見えていた既習の英単語までもが深みと広がりをもって見えてくる興味深い言語です。 ほぼ全員が初めて学ぶ言語ですので、基礎から学んでいく予定ですが、文法や語彙の単なる丸暗記ではなく、長い時を経て人々が培ってきた文化の一つとして言語の成り立ちを鑑賞することで、言葉そのものに対する興味と知識を増すきっかけとなればと思います。	医学、薬学、化学元素、植物名、美術、宗教、文学etc.(ちなみにetc.もラテン語です)と、理系文系を問わず様々な学術用語の基礎であるラテン語を、様々な専攻分野の皆さんが集まって学習できる機会を楽しみにしています。	○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
西洋文化論	工	山下 太郎	後	古今東西という言葉がある。我々は東洋の今を生きている。そんな我々にとって一番なじみの少ないのが西洋の古典文化ではないだろうか。当時の人間が残した言葉は、今も欧米人の心の琴線に触れる価値を持つ。では、我々はどう感じ、どう思うだろう。異文化はおのが文化を照らし出す鏡である。 西洋古典文化を代表する名言を手がかりにして、今を生きる我々にとって価値ある指針とは何かを探りたい。	予備知識は前提としない。心の目を大きく開けて、ピンとくる「何か」との出会いを楽しみにして欲しい。	○		○
日本文学Ⅰ	医	早川久美子	前	日本文学は、様々な内容を多様な表現方法を駆使して創作されている。この講義では、〈女主人公〉の「祈り」、「執心」、「怪異」をキーワードにして考えてゆく。取り上げる作品は、各時代の、いろいろなジャンル(説話・王朝物語・説経・演劇・浮世草子・読本・芸能)から選ぶ。作中人物の行為としての「祈り」は、我々にとっても「現実」(実際に体験できるのだという感覚)を見出しやすい。「執心」や「怪異」は、本来は忌避されるべきものであるが、やはりそこにも「現実」を感じとってしまうであろう。実際にテキストを音読し、あるいは関連する他の作品と比較することによって、作品の価値を吟味しつつ、そのような「現実」を享受することを目的としたい。	作者に興味を持ち、繰り返し音読してゆけば、とっつきにくい古典文学も、次第に「わかる」ようになってきます。兼好法師は、『徒然草』第13段で、「ひとり燈のもとに文をひろげて、見ぬ世の人を友とするぞ、こよなうなぐさむわざなる。」と述べています。私たちが古人のところにふれつつ、作品を享受できればと考えています。		○	
日本文学Ⅱ	医	早川久美子	後	日本文学は、様々な内容を多様な表現方法を駆使して創作されている。この講義では、〈男主人公〉の「祈り」、「執心」、「怪異」をキーワードにして考えてゆく。取り上げる作品は、各時代の、いろいろなジャンル(説話・王朝物語・軍記物語・演劇・浮世草子・読本・芸能)から選ぶこととする。作中人物の行為としての「祈り」は、現代に生きる我々にとっても「現実」(実際に体験できるのだという感覚)を見出しやすい。「執心」や「怪異」は、本来は忌避されるべきものであるが、やはりそこにも「現実」を感じとってしまうであろう。実際にテキストを音読し、あるいは関連する他の作品と比較することによって、作品の価値を吟味しつつ、そのような「現実」を享受することを目的としたい。	作者に興味を持ち、繰り返し音読してゆけば、古典文学も「わかる」ようになってきます。手塚治虫は、「君たち、漫画から漫画の勉強するのはやめなさい。一流の映画をみろ、一流の音楽を聞け、一流の芝居を見ろ、一流の本を読め。そして、それから自分の世界を作れ。」と述べています。私たちが一流の作品を学んでゆきましょう。		○	
日本近現代文学	工	高木 彬	前	文学の魅力は、未知の空間を仮想体験できること。しかし実は僕たちは、その体験をおして既知の空間のリアリティを知る。たとえば、稲垣足穂や村上春樹の描く神戸は、虚構の神戸でありながら、現実の神戸よりも“神戸らしい”。文学のなかの都市・建築空間は、作中人物の主観によって捉えられているからだ。地図や建築図面の空白部分、そこに充ちているはずの雰囲気や空間性を、文学から読んでみよう。そこにはきっと、僕たちにとってリアルで切実なものが含まれているはずだ。 この講義では、足穂や春樹をはじめとした近現代文学を手がかりに、都市・建築空間を読み解きたい。あるいは、都市や建築の観点から文学を読み解きたい。	「文学」と銘打っていますが、文学好きでなくてもかまいません。どうすれば理系のあなたが文学を面白く読めるのか、そのポイントの一つをご紹介します。あるいは、ふだん建築の設計課題に追われているあなたにとっては、コンセプトづくりのヒントが得られるかもしれません。 文系/理系の境界線を、軽々と越えて行きましょう。		○	○
西洋文学論	工	山下 大吾	前	ホメーロスの『イーリアス』『オデュッセイア』という二大叙事詩に端を発するヨーロッパ文学。それは今日まで、その最高の模範に戦いを挑むかのように、各時代各地域の様相を彩り、映し出しながら、同時に普遍的価値をも併せ持つ古典的な作品を数多く生み出しており、21世紀の現代日本に生きる我々をも魅了してやまない。 本講義では、ギリシア・ラテンの西洋古典に由来する汎ヨーロッパ的な統一性に留意しつつ、その主要作品の内容、およびそれらに備わる特徴や創造的側面を概観する。合わせて漱石や鴎外、二葉亭など、我が国の文豪の残した作品や批評、翻訳などに見られるヨーロッパ文学に関する言葉を手掛かりとした紹介を試みたい。	西洋各国の文学作品を根底から支えている philology「ことばに対する愛」は、洋の東西を越え、人間の有する本源的な力と言ってよいでしょう。その力を皆さんと共有し、再確認する場になればと考えています。意欲的な学生の参加を期待しています。			○

文芸創作論	医	藤田 佳信	後	<p>ものを書くのは、さまざまな制約の中で書く、ということです。本講義では、色々なトピックとテーマを掲げ、受講生にテーマに関する問いかけをし、作家の苦心の跡をたどる文芸作業を行います。それにより、創作の具体的な技法、＜書く制約＞を意識した創作態度を、効果的に身につけることができます。</p> <p>最終目標は、エッセイ3編(身辺雑記・紀行文・読書感想文)の創作です。自分の気持ち・考えを整理し表現する、(話しことは・書き言葉合わせて)言語化する力、聞くひと・読むひととの対話を育てるための創作です。</p>	<p>完成された文芸作品を読むのは、一つの楽しみです。本講義では、作品を単に受け身で読むのではなく、自分自身を実際に書く立場に置いてみます。さまざまな文芸作品を題材に本講義の文芸作業を実践すれば、作品を別の角度から見る(分かる)ことができます。創作の苦心の跡を、一緒にたどってみましょう！</p>	○		
美と芸術	工	三木 順子	前	<p>Artという語は、「芸術」とも「美術」とも訳される。このことからわかるように、一般に美と芸術は深い結びつきをもつものとみなされてきた。だが今日、美と芸術は、必ずしも相互に関連するものではなくなっている。</p> <p>この講義では、もはや「美しい」という形容詞では説明できなくなった芸術の諸相を明るみに出すとともに、芸術と乖離した美が、今日、どのような場でどのような意義と課題をもって現象しているのかについて考察する。</p>	<p>私たちは、展覧会やコンサートを自由に選び、好きなようにアートを楽しんでいます。しかし、このような気ままな芸術体験の次元から一歩踏み出し、より根本的に、なぜ人間は美や芸術を必要とするのかに目を向けるとき、芸術は、たんなる趣味の対象ではなく、学問の対象として、新しい姿で立ち現れてくることになるでしょう。</p>	○	○	
日本近代精神史	工	伊藤 徹	前	<p>人間は、世界と自己に関するイメージを組み立て、それに即して生きていく。人間の支えとなるこのイメージは、歴史とともに変動し、ときとして壊滅的な崩壊さえ経験する。明治維新以降近代化の歴史を歩んだ日本人の精神生活のなかに刻まれたそうした変動と崩壊の軌跡を、芸術家や知識人が残した作品やテキストから読み解く。具体的に扱う対象としては、高橋由一、岸田劉生、岡倉天心、浅井忠、岡本太郎、寺山修司などを考えている。</p>	<p>近代化は、人間のあり方を大きく変えたものであり、その変化は現代に生きる私たちの思考や感情にまで繋がっている。夏目漱石は、「片付かない」という言葉でこうした運動を性格づけたが、「終わりのない」近代を考えることは、私たち自身の生を顧みることでもある。本講義では、美術作品や文学などを通して、人間存在の基盤の反省に向かう生きた思想の息遣いを感じ取ってもらいたい。</p>	○	○	

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の歴史Ⅰ	府	榑木 謙周 ほか	前	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。	○	○		
京都の歴史Ⅱ	府	小林 啓治 ほか	後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。	○	○		
京都の文学Ⅰ	府	赤瀬 信吾	前	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。	○	○		
京都の文学Ⅱ	府	赤瀬 信吾	後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。	○	○		
京の意匠	工	並木 誠士	後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。	○	○	○	
英語で京都	機	金澤 哲	後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。 ※3回生以上を対象		◎	○	

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
リベラルアーツ・ゼミナールⅥ	機	田村 うらら	集中夏	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。		◎	○	
リベラルアーツ・ゼミナールⅦ	機	桑子 敏雄	集中夏	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。		○	○	

■ 人間と社会

《社会科学の基礎》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
人文地理学Ⅰ	医	阿部 美香	前	地理学は、地表面上で生起する諸事象を研究対象とする学問である。地理学の中でも特に、人文・社会現象を直接の対象とするものを人文地理学という。人文地理学の中には、都市地理学・農村地理学・人口地理学・社会地理学・経済地理学・文化地理学・歴史地理学など、様々な分野が存在する。本授業では、人文地理学における各分野に関して、その概要と研究例を紹介する。また、風景・景観・場所・空間・立地・風土・環境・地誌・地図等、人文地理学における基礎概念を解説する。各回の講義の中で、受講者が地理学的な思考や手法とはどのようなものか、ということへの理解を深め、社会で起こる様々な事象への見方を広げることを目的とする。	地理学と聞いて、皆さんは何を想像するでしょうか。色々な場所の自然条件を思う人も多いでしょう。でも地理学にはもっと沢山の分野があります。人文地理学が対象とする事柄に触れ、地理学はこんなにも幅広い学問なのかと驚く人もいるかもしれませんが。講義で扱う議論から、自身の視野をまた一つ広げてもらいたいと思います。	○	○	
人文地理学Ⅱ	医	阿部 美香	後	地表面上の様々な事柄を探究する地理学の中で、人文地理学は特に人文・社会現象を直接の対象とする。本授業では人文地理学に属する分野のうち、特に歴史地理学の手法や内容を取り上げる。歴史地理学は「過去の地域像を解明する」という基本概念を持つ。講義で取り上げる主たる史料は、近世日本で生み出された地図、地誌類、名所案内記、浮世絵版画などである。それらの史料から、それぞれに表された過去の地域像を読み取っていく。歴史地理学の基本的な考え方を理解し、「過去の地域の姿を見つめ直す」という視点が、現代的課題を考察する時、どのように活用できるか、受講者各々が考えられるようになることも、本講義の目的である。	講義はできるだけ、江戸時代に存在した史料を元に進めます。当時の人々はどのようなことを考えて、それらの史料を生み出していったのか。講義の中で想像力を膨らませ、過去の地域の姿を考えてみてください。また、そのような過去の地域像から現代に活かすことは何か、という視点も持ってもらえることを願います。	○	○	
社会学Ⅰ	府	玉井 眞理子	前	本授業では、都市、逸脱、マイノリティ等の社会的トピックに焦点づけ、社会学において蓄積されてきた分析視角に照らし、考察を行う。 社会学は社会的存在として人間をとらえるが、時に劣等/優越感に行動を左右される主体の集合体である社会を、社会学がどのように把握しようとしてきたかを知ることが、社会学を専門にしようとする者でなくとも、社会で生きていく者全てにとって有用である。 加えて本授業は受講生間のグループディスカッションのみならず、授業ごとに受講生は得た知見を復習し、カードに書き取り提出する機会が用意されている。従っていわゆる「承り型」ではない学習形態、すなわち受講生の主体的な態度を育む参加型学習を一部取り入れている点に特徴がある。	講義だけで社会学の内容を理解することは困難である。新聞を読むことはもちろんのこと、少し難解な社会学の「古典」を読破することも重要である。 また積極的・主体的な学修態度で授業に臨んでもらいたい。	○	○	○
社会学Ⅱ	府	玉井 眞理子	後	本講義は前期に開講される「社会学Ⅰ」に引き続きものであるから、「社会学Ⅰ」を受講していることが望ましいが、本講義を単独で履修することも可能である。 「社会学Ⅰ」ではどちらかといえば抽象的な考察を深めるが、本講義「社会学Ⅱ」では、「男女共同参画」や「NPO」、「貧困」等、より具体的なテーマを取り上げ、私たちが豊かな社会を構築するにはどう生きていけばいいかといった問題を視野に入れつつ、考察を深めていくことにしたい。	講義だけで社会学の内容を理解することは困難である。新聞を読むことはもちろんのこと、少し難解な社会学の「古典」を読破することも重要である。 また積極的・主体的な学修態度で授業に臨んでもらいたい。	○	○	○
政治学	工	竹本 知行	後	政治学の基礎知識を得ることで政治を見る「目」を養う。人間の社会が存続する限り、「政治」なるものは消えることはない。では、我々が付き合わざるを得ない「政治」とはどのようなものなのか、そして、我々はそれにどう向き合っていけばよいのだろうか。 本講義では、テキストを中心に以上の問題について考察を進めつつ、適宜、指定した参考文献なども用いて、先人が政治とその諸テーマについてどのように考えてきたのかについての理解も深める。	「人間は政治的動物である」(アリストテレス)とは、しばしば引用される言葉であるが、彼の時代から2500年を経た今日でも、人間は協調と共同と競争に生きる「政治的動物」であることをやめていない。 講義では様々な問いを投げかけていきたい。それについて考えることを通じて、人類史を貫く「政治的」営みに接近してほしい。	○		○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
国際政治	府	依田 博	後	<p>現代国際政治史上の主要な武力紛争を国際政治研究でよく知られている5つの理論を用いてどこまで説明できるのかを検討する。太平洋戦争も日中戦争も、日本の対外政策の失敗であった。ナチドイツによるヨーロッパ支配の試みも、失敗であった。その失敗の理由の一つは、誤った世界認識にあり、その誤った世界認識をもたらしたのは、理論の誤用にある。授業では、現代国際政治での主要な対立をできるだけ正確に理解することを目指す。</p> <p>キーワードは、平和構築・平和維持、グローバルイゼーション、主権国家、国際機関、ODA、戦争(紛争)である。</p> <p>エッセーライティングに毎回取り組む。その目的は、与えられたテーマに関して短時間で文章を的確にまとめることにある。それは社会人として不可欠な資質である。</p>	<p>毎日、新聞を読む、あるいはインターネットでニュースをチェックする習慣を身につけてください。ニュースをチェックすることは、授業の予習・復習にもあたります。時事問題に関心を持つことなく「政治」を理解することは不可能です。</p>	◎	○	○
経済学入門	工	人見 光太郎	後	<p>経済学とは、人間や企業が経済的な誘因に対してどのように行動し、その結果として経済システムがどのように動くかを分析する学問です。</p> <p>この授業ではトレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配という現代経済学の中心概念をもとに経済学の基本的な考え方と分析の方法を学びます。</p>	<p>経済に関した問題では立場の違いにより極端な議論が行われる場合がありますが、できるだけ客観的な事実を目を向けるようになって下さい。</p>	○		

《人間と社会》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
現代の政治	府	依田 博	前	<p>日本の政治の仕組みの基本を理解することを通して、政治学の基礎を学習する。キーワードは、民主主義、政治制度、フリーライダー、選挙、マスコミ、グローバルイゼーションである。</p> <p>政治の仕組みを理解する前提として、「なぜ」という問いを発するための技法を念頭においてエッセーライティングに毎回取り組む。その意図は、暗記する学習から自ら理解する学習への転換を図ることにより、とくに身の回りに起こる出来事を常識にとらわれない発想力で理解し、それを短時間で文章にまとめる力量を身につけることにある。</p>	<p>毎日、新聞を読む、あるいはインターネットでニュースをチェックする習慣を身につけてください。ニュースをチェックすることは、授業の予習・復習にもあたります。時事問題に関心を持つことなく「政治」を理解することは不可能です。</p>	◎		○
生活と経済	府	小沢 修司	後	<p>経済(=生活の営み)の仕組みを知ること、私たち自身が社会の主人公になる上で欠かすことができない。にもかかわらず、「経済学」には私たちの生活とは縁遠い難しい学問とのイメージがつきまとう。なぜ、「経済学」は日常生活、暮らしから離れていったのか、「生活と経済」の切り口から経済学の特有なもの見方、考え方を平易に解説しながら、経済学の人間の再生を目指す。</p>	<p>大学での学習では2つのことが大切です。1つは「常識を疑う」こと。もう1つは「何故?」と問いかけること。授業では、みなさんが「当たり前」と思っているいろいろな考え方や観念を突き崩していきたいと思っています。</p> <p>考え方の「再構築」にあたっては、「生き生きとして現実感覚」で「古典」を学習することが有効です。</p>	○		○
心理学	工	大谷 芳夫	前	<p>本講義で取り上げる主な内容は、心理学のうち実験心理学と呼ばれる分野に属するものである。実験心理学は、人間の心の働きを科学的に解明し、その法則を明らかにしようとする学問である。実験心理学が対象とする範囲は多岐にわたっており、医学、生理学、情報科学など様々な学問分野とも密接に関係している。</p> <p>本講義では、心の働きの基本的な側面である、視覚(ものを見る働き)・記憶(ものごとを覚える働き)・学習(環境に合わせて行動を変化させる働き)の機能を取り上げ、基礎的な現象や知識を紹介するとともに、実験心理学の方法論や考え方について解説する。</p> <p>また、これらの心理学的機能を支える、眼や脳の生理学的機構についても紹介する。</p>	<p>「「こころ」とはなにが」という問いは、人間にとって根源的な問題です。実験心理学は、この疑問に科学的な方法で答えを得ようと取り組んできた学問です。皆さん一人一人が持っている「こころ」について、現在の科学はどう答えるのか・答えられないのかについて知り、自分自身を見つめ直すきっかけとなればと思っています。</p>	◎		

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
発達心理学	医	小川 恭子	集中・夏	<p>人の発達とは子どもから大人になる時期だけのことでなく、生涯にわたって発達するものと考えられている。短い期間に大きな成長がみられる乳幼児期、大人になる心理的・社会的変化を感じる青年期、大人になってからの成人・老年期等、それぞれの時期について研究が進められている。</p> <p>このような人間の生涯にわたる発達について、心理学的側面を中心に学ぶことを目標とする。発達心理学の諸理論を概観し、人生の各時期の発達課題や起こり得る問題、環境との相互作用等について学び、理解を深める。</p>	<p>心理学では科学的な手法を用いて現象を明らかにしようします。しかし、人のことについて100%正解といえることはなかなかありません。そんな学問に取り組むのは難しく興味深いことです。自分自身で考えようとするのがその後に生きてくると思っています。</p>	○	○	
現代社会と心	府	石田 正浩	後	<p>組織と関わらずにはいられないのが現代社会の特徴である。組織心理学は、そのような組織における人間の心理・行動を研究する学問領域である。組織はその構成員から組織目標を実現するための貢献を期待するが、構成員は収入を得ること、自己実現の機会を与えられることなどさまざまな期待をもって組織と関わり、お互いの期待が一致することは難しい。</p> <p>本講義では、組織心理学・社会心理学が蓄積してきた、主としてモチベーション・コミットメント・リーダーシップについての知見を知ることを通して、現代の組織を生きる人間の心理学的・行動学的特徴を理解し、自らのキャリア(職業人生)を考えていく心理学的な視点を学ぶ。</p>	<p>自分が所属するゼミやサークル、アルバイト先といった集団も組織です。授業内容はそこでの自らの体験と直接関連します。授業内容を自分にあてはめてみて理解を深め、体感するようにしてください。</p>	○		○
現代社会とジェンダー	府	小沢 修司	前	<p>男女共同参画社会の実現に向けて、ジェンダーをめぐる人権問題について自己の問題でもあるとして積極的に関心を持ち続けることができるようにしたい。</p> <p>内容構成の柱は、大きく3つに分けられる。一つは、人類の歴史をジェンダーの視点から捉え直す。二つ目は、ジェンダーをめぐる制度・政策について、国内外の条約や法律、社会政策等からその到達点や課題を考察する。三つ目は、言語や文学、心理学、教育などがジェンダー・イデオロギーを生産・再生産するという問題等を検討する。</p> <p>授業の方法としては、主には講義形式に依りつつも、最終講義は学生からのアンケートに答える形で、講義担当者全員による討論会形式によって行い、受講生と講師団との「キャッチボール」を実現したい。</p>	<p>ジェンダーという言葉を知ったことはありますよね？でも、もしかして女性差別の問題であると理解していませんか？もちろん、その側面は重要な要素ですが、それだけではありません。え、こんなところにもジェンダーが！さまざまな発見があり、授業終了時にはあなたの「当たり前」の意識が大きく変わっていることでしょう。</p>		◎	○
人権教育	工	杉本 弘幸	後	<p>近代日本社会の歴史を様々なマイノリティとの関係から考察する。日本の近代化過程における社会的マイノリティに対する差別の実態、マイノリティの差別撤廃運動参加など、できるだけ具体的事例を取り上げながら検討していく。特に、差別撤廃政策のように見えつつ、新たな抑圧を生んだ施策に注意を払って講義をすすめていきたい。また、マイノリティの側が、そうした施策に対してどのような態度を示したのかという問題も視野に入れる。なお大学の所在する京都の事例を中心にできるだけ具体的に文献・図像・映像史料を駆使した講義やフィールドワークをすすめていく。</p>	<p>みなさんが、これまで受けてきた「人権教育」は差別はいけない・よくないの一点張りだったことがおおいでしょう。いわば、「うさんくさい」・「あやしい」ものだったのではないのでしょうか？本講義では最新の人文・社会科学の研究成果をもとに、大学における「学問」としての人権問題を歴史的なアプローチを中心に学んでいきます。「人権教育」というと、これまで「うさんくさい」・「あやしい」と考えてきたあなたを歓迎します。</p>	○		○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
現代教育論	工	塩屋 葉子	前	我が国の近代公教育は、明治維新の「学制」発布に始まる。この時、我が国は歴史上類を見ない程の大きな教育改革を果たすのだが、同時に、学歴社会や受験競争など、解決を急務とする多くの教育問題の発端もここに求めることができる。「学制」発布以降、幾度かの大きな教育改革に迫られ今日に至るのだが、本講義では、特に現代の教育改革に焦点を当て、その実態を明らかにするとともに、今後の課題を考察し、我が国の教育の在り方を展望する。	みなさんは今、学校教育の最終段階で学んでいます。この時点において、自分がこれまで受けてきた学校教育とはどのようなものであったのかを振り返り、そして、これから受けるであろう教育について展望することは、発展的な自己形成を図っていく上で有意義なことだと思います。教育について、一緒に考察していきましょう。		○	○
食環境をめぐる国際社会と日本	府	宗田 好史 ほか	前	食環境をめぐる国際社会と日本について、本学教員と食糧に関わる専門家によるオムニバス形式で講義を行う。グローバルな視点で食糧の状況を俯瞰し、国際社会とわが国における食糧をめぐる課題について学び、課題解決のための方策について討議する。	食糧と食環境のあり方は、人間が生きていく上で最も重要なことです。現在の食環境は、環太平洋パートナーシップ協定の合意や消費税問題など、社会と密接な関係性を有しています。本授業において、現在の食糧環境について学び、個人の食のあり方から、地域、国、及び国際社会の食糧環境がより良くなるための方策について意見交換し、望ましい食の行動の実践をめざします。			○
環境と法	工	鳥谷部 壊	後	「21世紀は環境の世紀」といわれてきた。この言葉の通り、環境保護のためのさまざまな取り組みがなされている。しかし、大気汚染、水質汚濁、廃棄物・リサイクル、眺望・景観、自然保護、気候変動など重大な環境問題が山積している。このような今日の環境問題を解決し、われわれの社会を未来に向かって持続可能なものとしていくうえで、法の果たす役割は決して小さくない。本講義では、環境法の基礎知識を習得することにより、法学の視点から環境問題を見る能力を身に付けることを目的とする。	現代社会は「環境」問題と密接なかわり合いを有しています。環境の悪化は様々な場面で社会にひずみをもたらしています。「文明の滅亡を遅らせるための法律」ともいえる環境法を皆さんと一緒に学べることを楽しみにしています。	◎	○	○

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都学事始 —近代京都と 三大学—	機	宗田 好史 ほか	前	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。			○	
京の産業技術史	工	山田 由希代	後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。		○		
現代京都論	府	大島 祥子	前	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。		○		
医史学	医	八木 聖弥	前	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。	◎	○		

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
リベラルアーツ・ゼミナールⅠ	機	藤井 陽奈子	前後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。		○	○	
リベラルアーツ・ゼミナールⅡ	機	児玉 英明	前	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。		○	◎	
リベラルアーツ・ゼミナールⅢ	機	児玉 英明	後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。		◎	○	
リベラルアーツ・ゼミナールⅣ	機	長坂 勉	集中夏	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。		◎	○	
リベラルアーツ・ゼミナールⅤ	機	脇田 哲志	集中冬	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。		○	○	
リベラルアーツ・ゼミナールⅥ	機	児玉 英明	後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。 ※2年生以上を対象	◎		○	

■ 人間と自然

《自然科学の基礎》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
物理学Ⅰ	府	春山 洋一	前	この講義では物理的な見方や考え方を養うことを目的とする。物理公式や数式の扱いには重点を置いていない、自然科学の基本となる単位や次元から始めて、次元解析の話題を紹介する。次に、自然科学の歴史から古典力学の成立までを主なテーマに講義する。話題とするのは、初期の哲学者、ガリレオ、ケプラー、ニュートンなどの考えたとその業績である。古典力学の重要な到達点としての運動方程式の意味や扱いについて述べ、まとめとして物理で重要な保存則の意味と扱いについて述べる。	科学技術の急速な進歩に伴い、先端技術を取り込んだ様々な機器が普及し、その恩恵を受けながらも、多くの人々にとって中身はブラックボックスとなりつつある。これが科学の時代における「非合理性」の背景になっているように思える。 分からないなりに合理的に物事を考えるというスタイルを身につけることが大切である。	○		
化学概論Ⅰ	工	三木 定雄	前	高度な技術、資源、エネルギー、環境など、現代の社会を考えるに不可欠なキーワードのどれも、物質と密接に関係しています。その意味で、物質を対象とする科学である化学は、現代社会で知識人たろうとするに、必須の素養といえます。この講義では、物質について理解が、どのように変遷し、今日での理解に至ったのかを、化学における歴史上のエピソードをなぞりながら学習し、それを通じて、「物質のなりたち」と「物質の変化」という化学の大きな輪郭を勉強したいと思います。	わが国では、「きたるべき受験への対策」に縛られがちな授業のあり方が、自発的な知識欲を減退させているのは否めません。軽重の差はあっても、皆さんは高校化学にふれてきたと思います。しかし、化学の面白味をふつつと感じた人は、少ないかも知れません。大学に合格されたいま、そのおもしろさを再発見しながら、教養としての化学に触れていただければと思います。		○	
化学概論Ⅱ	工	石川 洋一	後	暗記するのではなく、大学生として感覚的に身につけておいて欲しい(物理)化学的な考え方が幾つかある。それは、「熱力学」と「量子化学」と、それらを基にした「化学反応論」である。しかし、高校のときに学んだ化学とこれらの考え方の間には、比較的大きなギャップがあるように思われる。このギャップを少しでも埋めるために、「サビと老化」、「クーラーの効率」、「視覚と色」といった身近な化学現象を題材として、上記三つの考え方の概要を論述したい。	化合物名も化学反応式も覚えなければいけない。その複雑多岐性ゆえに化学は暗記に頼らなければいけなさそうに見える。しかし、物質を構成する粒子は「原子核」と「電子」であり、化学的性質は電子によって支配されているといっても過言ではない。この電子を理解することで、暗記に頼らず演繹的に化学を理解する筋道を示す。		○	
生物学概論Ⅰ	工	遠藤 泰久	前	生命とはどのようなものか、どのように構成されているか、どのように関わり合っているか、生命の様々な特徴(生、死、不死とはどのようなことか)、身体の仕組みと機能(骨格、筋、神経、消化、免疫などの仕組み)、環境と関わり(共生、寄生、社会性)などについて学ぶ。	生物学は名前のとおり、生物についての学問ですが、その方法は様々であり、「生物学」の特別な調べ方はありません。「生きているもの」の仕組みや働きを、ある場合は化学的に、ある場合は物理学的に、ある場合は数学的に調べる必要があります。		○	
生物学概論Ⅱ	工	遠藤 泰久	後	生物の様々な特徴、繁殖(無性と有性、どのように子孫を残すか)、発生(身体はどのように形成され、老化していくか)、遺伝(父親からの分け前と母親からの分け前)、再生とはどのようなことか、種とは何か(進化)などについて学ぶ。	「生きているもの」は時間の関数で変化し続けています。ある瞬間の状態を明らかにしたからとしても、その本質を十分に理解したとは言えません。多様性をつくり出す仕組みや、生命のうごいていく過程をみつめ直してみましょう。		○	
生命科学講話	府	塚本 康浩 ほか	集中・夏	遺伝子、植物、動物や病原体の研究、さらにはそれらを基盤とした食品や医療への応用について学ぶ。教科書などでは見ることが出来ない教員が実際に行ってきた研究成果を実感し、生命科学の本質を「講話」という形で体験する。	生命科学の研究における生データや今後の将来性を、実際に手を動かして実践してきた研究者(教員)から感じ取って欲しい。さらに、生命科学の研究に興味を持って貰えたらと願う。		○	○
地球の科学	工	酒井 敏	後	地球は太陽系の中で唯一、液体の水を持つ惑星として生まれ、進化を遂げて来た。水を持つことで、地球は他の天体と大きく異なる運命をたどることになった。 この講義ではまず、宇宙誕生から現在にいたるまでの歴史を振り返り、「地球誕生の物語」を解説する。後半は、「現在の地球環境」を維持する大まかなメカニズムについて解説する。 日常生活とは全く違う視点から、ピュアな気持ちで地球を考えることで、「我々の地球」に対する認識は大きく変わるはずである。	世の中、真面目だけでは通用しない。高校までは、真面目に100点を目指せばよかった。しかし、状況が変われば、その点数そのものが無意味になる可能性もある。それが自然界の掟であり、人間社会もその中にある。地球と地球生命の歴史は、その事実を雄弁に物語る。これを知ることが、子供から大人への第一歩である。		○	○

《人間と自然・科学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
人と自然と数学 α	工	大倉 弘之	前	<p>高等学校や大学初年次で学ぶ数学の題材は主として19世紀までに確立したものであり、中にはその考え方が4000年以上遡るものもあります。本授業ではいくつかの題材についてその起源にさかのぼって、元々の考え方に触れ、それらがどのような人の営みや自然との関わりの中から生まれて来たものであるかを理解することにより、現代における数学の役割や必要性等について見直す機会とします。</p> <p>歴史的な資料等に基づいての講義と演習から成り、演習では、歴史上の元々の考え方に触れながら、現代の数学の「言葉使い」を用いた問題の解法や実際の計算法等を学びます。</p>	<p>これまで、どうも数学は苦手だと思っていた人からどんどん数学を使いこなそうと思っている人や数学の教員を目指すような人まで、幅広く受講して欲しいと思っています。</p> <p>数学の色々な考え方をそのルーツをたどりながらより身近に感じてもらうことで、皆さんの数学に対する見方が変わります。</p>	○	○	○
人と自然と数学 β	工	塚本 千秋	後	<p>幾何学は数学的なものの見方を学ぶのに良い題材です。古代ギリシア以来、ユークリッド幾何学が中心ですが、この講義ではそれとは少し違った幾何学、射影幾何学について述べます。そこから他の色々な数学が派生する様子も調べます。</p>	<p>数学では特別な用語と厳密な議論で新しい概念が導入されて、とっつきにくく思われる方も多いことでしょう。この講義では「目に見える」形の応用例を用いてその概念の有効性を感じ取りながら、数学的なものの見方を学びます。</p> <p>とっつきにくさを緩和するための毎回の演習に御参加下さい。</p>	○		○
人と自然と物理学	工	萩原 亮弘 播磨	後	<p>‘物理学’の言葉から、人と離れたところにある冷たい数式ばかりを連想する人も少なくないだろう。しかし、物理学は、昔から人間が自然現象を粘り強く見つめて、そこに潜む謎や規則を追い求め、苦難の末にその知識を活用できるようになるまでの人の営みの集積として成立してきた学問である。本講義では、こうした物理学の生き生きとした側面を、物理学における考え方の本質的特徴、様々な発見や進歩が人間社会に対して果たしてきた意味と役割などを考察することによって、できるだけ平易に紹介・説明したい。</p> <p>講義は、実際に物理学を研究手段にしている複数の担当者によって、それぞれ独自の切り口・視点をテーマにして、物理学の各分野を広く見渡す形で進める。</p>	<p>言葉を使って考えることの重要性を知ってほしいと思います。数学力より文章の読み書きの力がものをいう、皆さんにとって意外な物理学の入り口をお見せします。(萩原)</p> <p>物理が我々の日々の生活のうえでとても身近な存在であること、また生活を豊かにする楽しい分野であることを再認識してほしいと願っています。(播磨)</p>	○		○
生物学的人間学	医	小野 勝彦 ほか	前	<p>「人間」はさまざまな角度から眺めることが出来る。哲学的、文学的、社会的な観点から、などなど。理科系の視点からでも多様な見方(物理、化学などなど)ができるが、本講義では生物学的視点から人間を還元学的に理解しようとするものである。すべての生物は、細胞→組織→器官(臓器)→個体という階層性を持っている。この普遍性を土台として、生物としての人間の特殊性を見ていく。前半で、普遍性を求めて細胞レベルからの理解(さいぼうがくてき人間学)につとめ、後半では臓器・器官レベルからのアプローチ(かいぼうがくてき人間学)を、特殊性を考えつつみていく。</p>	<p>生身の人間に興味のある人であれば、誰でもわかるように細胞や器官を紹介していく。特に、世間で流布されている細胞や内蔵や体に関する「うわさ」の類が本当かどうか、明らかになっている範囲で紹介する。こむつかしいことを考えなくても、30～60兆の細胞から成る自分の体を少しでも知りたい人に受講してもらいたい。ただし、試験は少々こむつかしいかも知れない。</p>	○		

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
意外と知らない植物の世界	機	藤井陽奈子 ほか	後	<p>植物に焦点をあて、文系と理系の複数の教員がリレー講義を行い、文理横断する内容を展開する。文系ではイギリス文学を、理系では植物や植物園に関する知識及び植物と生活の関係性から薬草を射程に入れる。さらには、植物と植物園を活かした地域連携の教育活動について思考し企画を披露する。</p> <p>特に、府立植物園を利用したフィールドワーク的な授業では、文理にかかわる生きた教材としての植物に感覚を通じて触れ、植物の生きざまと死にざまを観察する。観察を通じて、人間の生活と植物の関係性を捉えつつ人間の生きざまを思索する。</p> <p>そうした学習の過程では、共通の植物を介して教師と学生、あるいは学生同士のinteractiveな討論が期待できる。例えば文学では、植物を感性でことばにし、イメージで捉える。それに対して理系では、植物を物理的なサイエンスの物として捉える。文理の視点の違いを理解し、異分野の学生が交流しながら多角的な見方を学生が獲得することを目指す。</p>	<p>【松谷】植物観察の秘訣は、遠くから近くから、四方八方上下左右から、触って嗅いで時には味わうこと。『現場が教科書』、を実感しましょう。</p> <p>【藤井】植物園での観察と発見を経て、異分野交流しながら学習活動を創造してみませんか。</p> <p>【後藤】私たちは動物です。植物との関わりを学習し、生物学的多様性を理解しましょう。</p> <p>【野口】身近にある植物にまつわる物語を知って、世界への扉をまたひとつ開こう。</p> <p>【佐々木】豊かな言語表現による多彩な描写の様子を存分に味わってもらいたい。言語表現、視覚に依拠した再現、それとも現物、のどれに一番惹かれますか。</p>	○	○	○
科学史	工	笠木 雅史	後	<p>古代から現代までの科学の発展を、実験という観点から学習します。実験は、科学において新たな発見をもたらすとともに、理論を検証、反証する重要な方法論です。歴史上著名な実験を紹介しつつ、それがどのような影響を持ったのかを概観していきます。また、実際に行われた実験以外にも、「思考実験」と呼ばれる科学者が頭のなかで行った実験についても、詳しく見ていきます。授業の後半では心理学、経済学などの従来実験を行わなかった学問に実験という方法がどのように導入され、その結果、どのようにそれらの学問が変化したのかを解説します。</p>	<p>この講義では、「実験」をキーワードに科学の発展の歴史をたどりつつ、実験・思考実験が科学的知識の拡大、理論の確証や反証にどのように貢献したのかを考察します。科学についての知識は特に前提しません。授業中の積極的な発言・質問を歓迎します。</p>	○	○	
環境問題と持続可能な社会	工	高月 紘	前	<p>日本ならびに地球規模での環境問題の経過と現状を述べ、求められる持続可能な社会に向けての取り組み、特に私たちのライフスタイルの見直しの必要性について議論を深める。講義の内容としては、公害問題、地球環境問題、環境倫理、生態系の保全、持続可能な社会への取り組みなどを取り上げる。</p> <p>また、受講生に環境問題を自分たちの問題としての当事者意識を持ってもらうよう促していきたい。</p>	<p>環境問題の全体像を把握した上で、環境問題の背景・原因を理解し、合わせて、自らの日常生活と環境問題のかかわりを知り、可能な限り環境問題を解決するために行動を起こしてほしい。特に、資源・エネルギー問題や生物共生社会への関心を深めてほしい。</p>	○		○
食と健康の科学	府	東 あかね ほか	前	<p>テーマ：日本人の食と健康</p> <p>日本人の食と健康の現状を健康科学、調理学、食品科学等の科学的な観点からオムニバス形式で概説する。</p> <p>ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食：日本人の伝統的な食文化」の意義を知り、わが国及び世界の食と健康の在り方について考察する能力を養うことを目標とする。</p>	<p>京都府立大学食保健学科教員と、京都和食文化研究センターの客員教授を中心とした多彩な講師陣による講義を行います。その後、関心のあるテーマについてレポートを作成し、輪読と討論を行います。</p>	◎		○
キャンパスヘルス概論	工	荒井 宏司	前	<p>健康の意義を学び、肉体的、精神的な自らの健康を創造することをサポートする。最新の医学に基づき、これから学生生活において、また社会に出てから遭遇するであろう様々な疾病に関する正しい知識を身に付ける。</p> <p>誰もが一つずつ持っている「人体」は、すぐ手の届くところにある現代科学のフロンティアである。自らの身体で「科学する心」を学び、巷にあふれる誤った健康情報に対する耐性を身に付けることも目的とする。</p>	<p>これから始まる大学生活を乗り切ることが健康であらねばなりません。この講義では、最新の医学に基づき、これから皆さんが出会うであろうさまざまな病気に関する正しい知識を身に付け、巷にあふれるトンデモ健康法に対する耐性を持ってもらおうと思っています。</p>	○	○	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
時間生物学特論	医	八木田和弘	集中・夏	<p>生物は約35億年前に誕生してから地球の自然環境に適応することで繁栄を遂げてきた。その過程で、地球の自転により生ずる昼夜のサイクルを正確に予測するシステムとして、自らの体内に精巧な『時計』を作り上げた。この日周性変化を予測する時計が『体内時計』である。</p> <p>バクテリアからヒトを含む哺乳類に至るまで、地球上のほとんどの生物に『体内時計』が備わっており、生体機能の『概日リズム』を発現させている。本集中講義では、体内時計の基礎から疾患との関連まで体系的に議論する。 ※3回生以上(修士課程大学院生を含む。)を対象</p>	『体内時計』ってなんだ?最近テレビや雑誌などでもよく目にするようになった『体内時計』。生命の神秘を感じる話題から、睡眠や食事のタイミングといった身近な話題まで、『からだの時間』を科学します。	○		○
エネルギー科学	工	林 哲介	前	<p>身のまわりには、力学的エネルギー、熱エネルギー、電力エネルギー、原子エネルギー、光エネルギーなど各種のエネルギーがあります。授業の前半では、これらを古典物理学の枠組みに沿って系統的に追跡し、エネルギーの原理を理解します。そして後半には、これらを基礎にして原子力発電やエネルギー開発、地球温暖化等の現代の問題について検討します。</p> <p>大学入学までに物理学を学習した人が、そうでない人に対して解りやすく説明し、また後者が前者に納得いくまで質問するという学習方法によって、数式に悩まされない言葉による理解を進めます。</p>	文系をはじめ高校で物理をやらなかった人と、物理を選択した人とでグループをつくり、テーマごとに用意したテキストをもとに説明や議論を行い、言葉による理解を深めていきます。後半には、原子力発電やエネルギー開発、地球温暖化などの問題について認識を深め討論します。物理をやってこなかった人も、子どもたちや一般の人の疑問にも判りやすく説明できるような平易な理解を得る良い機会になります。	◎		○
現代科学と倫理	府	岩崎 豪人	後	<p>現代科学にかかわる様々な倫理的な問題を考える。科学技術倫理の基本的な考え方を学びながら、現実の問題への倫理的な対応を考える。現代社会は科学技術の様々な恩恵を享受しているが、一方で、その危険性も顕在化し、科学技術に対する不安も大きくなってきている。身近な技術的製品のリスクから、社会を変えていく科学技術まで、根本的な所までさかのぼって、問題をとらえ直し、吟味、検討を行う。具体的な問題を取り上げながら、当たり前に思っていることが、実はそうではないことを認識し、社会への理解と自分への理解を深める。</p>	講義形式で基本的な論点は整理しながら、具体的な問題を議論します。倫理的な問題を考えていくには、自分の感覚だけでなく、他の人の感じ方や意見も知りつつ、どうしていくべきかを考える必要がある。授業中に自分の意見を言えるように、積極的な授業参加を期待します。			○

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の自然と森林	府	池田 武文 ほか	前	※ 科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。		○		
京都の農林業	府	寺林 敏 ほか	後	※ 科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。		○		

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
リベラルアーツ・ゼミナールⅦ	機	石田 昭人	後	※ 科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。		○		○

■ リベラルアーツ・ゼミナール

【特色】

リベラルアーツ・ゼミナールは、教育目標に掲げられた「C：日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟すること」に重点を置きます。リベラルアーツ・ゼミナールでは、多様な価値観を持ち志向などが異なる仲間と交流し、様々な問題に関心を持ち、議論する力を高めることを狙いとします。授業は、1クラス30名を上限に、少人数で実施します。

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
リベラルアーツ・ゼミナールⅠ (感覚で探る問題解決の方法)	機	藤井 陽奈子	前・後	問題を解決するとはどういうことか。その理論を解釈しながら、具体的な日常における身近な問題を取り上げて、解決の糸口を発見し方法を思考する。その際、理論に基づくだけでなく、身体感覚を使ったより実践的な問題解決の仕方を探る。 また、ゼミナール方式をとることにより、討論を通じて他者との対話の中から解決の方法を導き出すとともにその重要性を知る。	日々の生活の中では、大小を含めた問題を解決しなければならないことがよくあるのではないのでしょうか。この授業は、問題を解決することについて自身で考えるだけでなく、他の分野の、他の大学に所属する学生との対話を通じて解決の糸口を見つけていく過程を、絵や図を使って楽しみ体感するゼミナールです。		○	○
リベラルアーツ・ゼミナールⅡ (現代社会に学ぶ問う力・書く力)	機	児玉 英明	前	「高校での学び」から「大学での学び」へ転換するにあたって、不安を感じている1回生も多いだろう。本ゼミナールは、そのような1回生を対象として、「論文とはどのような文章なのか」といった初歩から始める。大学での学びは、「聴く」ことや「読む」ことといった受動的な学びに、「問う」ことや「書く」ことといった能動的な学びが伴って、初めて完結する。本ゼミナールでは、「考えるという行為」と「書くという行為」の相関を論じた基礎的な文献を教科書にして、大学で学ぶためのリテラシー能力の向上に努める。 「『問い』を意識しながら読み、『問い』を意識しながら書く」という、すべての科目に共通する初年次教養教育を、少人数のゼミナール形式で展開する。	大学での学びは、自ら「問い」を立てることです。問いを立てるとは、関心を向けている対象を、疑問文の形で書きとめることです。本講義では、自ら立てた問いについてレポートを作成し発表するという、書くという行為に重点を置いたアクティブ・ラーニングを展開します。 パソコンや図書館の使い方も含め、1回生を対象に初歩からレクチャーします。 授業の後半では、「なぜ、いま民主主義が問い直されているのか」という問いに各自が向き合うために、示唆に富む映画(『母べえ』『母と暮らせば』)を鑑賞し、受講生と感想を語り合う「しゃべり場」を行います。		○	◎
リベラルアーツ・ゼミナールⅢ (社会科学の学び方)	機	児玉 英明	後	日々の新聞で取り上げられるニュースの中で、何か気になっているテーマがあるだろうか。本ゼミナールは、文系であろうと理系であろうと、時事的な問題への知的好奇心を持っていて、教員や仲間と議論する力を身につけたい学生を対象とする。 社会科学の学び方とは、学生一人ひとりが「人生をいかに生きるべきか」を問うことであり、その生き方を問う問いが「自分がいま生きている社会をどう見るか」という社会認識を問う問いと不可分に結びついていることである。 本ゼミナールでは、古典として定評のある文献を、現代にひきつけて精読する。そして、社会科学のセンスを磨くために2本の映画(『学校』『夕凧の街桜の国』)を鑑賞する。受講生とのディスカッションを通じ、各自の問題意識を尊重しながら、個人研究レポートを作成することが目標である。	大学に入学時、教授に次のように言われました。メートル単位で本を読め！田舎者の私は「メートル単位」という発想に、なぜか興奮を覚えしました。1回生は、学問へのいざないとして、新書本をよく読みます。新書本などは、1冊、2冊買って読んでいようでは不十分で、やはり「棚ごと買って読む」くらいの気迫がなければ、学問の本質には近づけないでしょう。		◎	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分			
						A	B	C	
リベラルアーツ・ゼミナールⅧ (製品の機能から科学を学ぶ)	機	石田 昭人	後	身近な製品の機能を切り口として、その背景となる物理・化学・生物学的な重要事項を理解し、最先端科学に触れることで、知的好奇心とグループ活動能力を育成する講義である。「硬い」、「光る」、「くっつく」、「伸びる」、「通す」、「分ける」、「吸い込む」といった機能を身近な製品や商品から探し出し、自らの手と頭を駆使して対象とする製品や素材の機能、その背景となる最先端科学について調査する。グループワークによる科学技術情報の収集と議論、発表の技法の修練を通して、受講者のポテンシャル向上はもちろん、三大学の学生が共に高め合う関係を創り上げていきたい。 文系理学部学科を問わず、知識の獲得に対して強い快感を感じることができる意欲的な学生の受講を期待する。2回生以上の受講も歓迎する。	メガネや保温マグカップは何で出来ている？と聞かれて「金属」、「プラスチック」しか出て来ないのでは？「ヒートテック」はどうしてあたたかいの？素材の名前や性質、製品機能の原理を知っていれば安心安全安上がりな生活ができますし、最先端の科学技術に触れることができます。こんな面白いことを放っておく手はありません。さあ、一緒に知の世界を探求しましょう。	○		○	
リベラルアーツ・ゼミナールⅧ (経営哲学)	機	児玉 英明	後	優れた企業家はその時代が直面している課題に解決策を示し、日々の仕事の中で人間性を高めている。本講義は「企業家の生き方に学ぶ教養教育論」である。 前半は、クローネコヤマトの宅急便を開発した小倉昌男『経営学』をテキストにする。宅急便の開発を扱ったケース・スタディを教材にして、経営戦略・経営組織の基礎的な考え方を学習する。また、併行して、背景となる戦後日本経済史もカバーする。後半は、京セラの創業者である稲盛和夫の『アメリバ経営』を取り上げる。京セラでファインセラミックスを開発し、その後、第二電電(DDI)の創設、日本航空(JAL)の再建に携わった稲盛のリーダーシップ論、組織論、利他の精神を学んでいく。 ※2回生以上を対象	街を歩いていると、クローネコヤマトの宅急便の集配車を見かけます。変わった形をしているトラックですが、なぜあのような形になったのでしょうか？なぜ、猫のマークなのでしょう？誰もが知っている宅急便ですが、スタートした1976年1月23日の取扱量は、たったの11個だったそうです。なぜ、宅急便は、これほどまでに成長したのでしょうか？ 経済・経営に関心のある理系学生の受講も歓迎します。ゼミナール形式で、気楽に真面目な話をしましょう。		◎	○	
リベラルアーツ・ゼミナールⅦ (現代社会と映画製作)	機	長坂 勉	集中・夏	本講義は、商事会社で27年以上にわたり映画製作ビジネスに携わった一社会人による実践的社会人論、体験的映画製作論である。学生時代に感銘を受けた政治思想家・丸山眞男の著作と山田洋次監督の作品から深く学んだ内容を披露しつつ、学生時代にこそ思索すべき課題についての問題提起を、まず行う。 更に、実社会に出て真摯に考究した社会人としての生き方や規範意識の問題など多面的で実践的なテーマを、両氏の思想を参照しつつ論考する。そして講義後半では、映画「学校」以来、20年間で11本の山田作品に出資参加した経験を基に、同氏の人生の軌跡を辿る「山田洋次論」を、次いで、映画を通じて現代社会を冷徹に凝視し続ける同監督の問題意識を「作品論」として、論述する。	「学生時代だからこそ学ぶべきこと」、「学生時代にしか学べないこと」、この二つの問いに何らかのヒントを受講者に与えることができれば、そして暑い夏の京都で一服の「清涼剤」として講義内容が喜ばれれば、人生の先輩たる一社会人が行う本講座の意義は、ほぼ達せられたに等しい。		◎	○	
リベラルアーツ・ゼミナールⅤ (アメリカと中国はいま)	機	脇田 哲志	集中・冬	21世紀は「多極化」の時代となっていくのだろうか？あるいは、アメリカと中国の「G2」の時代となるのだろうか？このゼミナールでは、アメリカと中国の「最新の動き」を理解することによって、グローバル社会のこれからをともに考えていく機会としたい。 今年度の集中講義は12月下旬を予定している。直前の11月8日にアメリカ大統領選挙の投票がおこなわれ、次の大統領が決まっているタイミングである。大統領選挙で何が重要な争点として浮かび上がったのか？選挙戦の経緯とその結果を読み解くことで、アメリカ社会を深く知る機会としたい。そして、新しい大統領が直面する内外の課題は何か？対中関係をはじめとするアメリカの外交はどのような方向へ進むのか？などについても検討する。	担当教員は、NHKの中国総局長とアメリカ総局長を経験した国際ジャーナリストです。これからグローバル社会で生きていこうとするみなさんが、いま世界で動いている出来事をどう把握し理解していけばいいか、という感覚を身につけられるように、みなさんと論議を重ねながら考えていきたいと思えます。			○	○

リベラルアーツ・ゼミナールⅥ (現代イスラーム世界の文化と社会)	機	田村 うらら	集中・夏	世界三大宗教の中でイスラーム教は、信者数を着々と伸ばし存在感を強めており、日本でも近年特に東南アジア出身者などのムスリムと直接接触する機会が増加している。しかし元々日本人にとって馴染みの薄い宗教であるうえ、9.11以降の偏向した欧米メディアによる情報も加わり、イスラームに対する誤解は強い。 本講義では、ごく基礎的なイスラームに関する知識に加え、トルコ等中東諸国を中心に現代イスラーム世界の文化と社会について学ぶ。	今後、ムスリムとのつきあいの機会は必ず増えます。イスラームや異文化理解に興味のある人だけでなく、専門から遠く事情に疎い学生諸氏の積極的な受講を歓迎します。学部時代こそ、多角的な視点に親しみ、解が一つでない諸問題の議論に習熟する好機です。講義とディスカッションを通して世界を見る力を鍛えてみませんか。		◎	○
リベラルアーツ・ゼミナールⅦ (感性の実践哲学)	機	桑子 敏雄	集中・夏	環境からの刺激を受け止め、解釈し、さらに環境に創造的に作用する能力を「感性」と捉えることができるとすれば、京都という地域空間の構造と履歴には、この地に生きた人々の感性的経験が蓄積されていると考えることができる。本講義では、空間の構造・空間の履歴・人びとの関心・懸念を総合的に捉える「ふるさと見分け」の方法によって、京都の地域空間を実践的に捉え、その感性的価値を考えてみたい。	日ごろ見馴れた風景のなかに自己の存在と自己の生が営まれる環境との関係を見出すための知的なトレーニングです。学生諸君には楽しみながら、新たな知の発見を経験していただきたいと思っています。		○	○

■ 京都学

【特色】

「京都で学びたい」、「京都を学びたい」と思い、伝統のある三大学への進学を希望した学生も多いことでしょう。京都三大学教養教育研究・推進機構では、京都の地域的、歴史的、文化的特色を生かした、12科目の「京都学」を開講します。三大学にまたがる学問分野の広さと、各大学の専門性の強みを生かした多様な京都学が提供されます。

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の歴史Ⅰ	府	榎木 謙周 ほか	前	原始・古代から中世に至る京都の歴史を概観し、都がこの地に置かれるまでと、その後の展開過程について述べる。 取り上げる時代は現代からは遠いけれども、今日の京都が形成される基盤を考えることは重要である。京都盆地がどのような地域的特色をもっているのか、そこがいかにして首都となったか、あるいは、そこで展開した政治や社会、文化の特徴はどのようなものが、具体的な事例をもとに論じる。 3人の教員が歴史学(文献史学)や考古学の立場からリレー式で担当する。	この授業では、中世までの京都に関する諸事象のなかから、重要と思われる事柄の正確な理解をめざしますが、個別的知識の寄せ集めに終わらせないようにします。 それぞれの時代の京都の歴史的特徴をどのように捉えればよいか、一人一人が考えてほしいと思います。	○	○	
京都の歴史Ⅱ	府	小林 啓治 ほか	後	近世以降、現代に至るまでの京都について、歴史的・地理的観点から概観する。江戸幕府の成立以降、京都は政治的中心ではなくなるが、国家権力や権威から切り離された都市になったわけではない。明治以降は、天皇制国家の権威の源泉として再建されていく。 それぞれの時代が都市京都をどのように特徴づけたのか、逆に言うと、都市京都はどのような役割をになったのかについて、具体的な事例をもとに論じる。 近代以降は世界史的な観点から京都を位置づけることも重視する。	近世から現代にいたる京都の歴史をまんべんなく扱うのではなく、対象となる時代の京都を規定している要素にポイントを絞って解説していきます。時の権力・権威と都市京都がどのように結びついていたのか、といった観点から考察を深めてほしいと思います。	○	○	

<p>京都の文学Ⅰ</p>	<p>府</p>	<p>赤瀬 信吾</p>	<p>前</p>	<p>文化は、ことばなくして形成されず、ことばなくして歴史を語ることは不可能である。古典的文化の中核をなすのは古典文学であり、京都文化の基盤となったのは、わが国の古典文学を代表する『古今和歌集』『新古今和歌集』などの和歌文学、また和歌文学をひとつの基盤として展開していった『伊勢物語』『源氏物語』『平家物語』といった物語文学などであった。こうした王朝の和歌や物語を主に取りあげ、作品を読みながら京都文化学の研究の方法を具体的に紹介する。作品の心理描写に分け入るための精密な読解の方法、作品の背景となっている歴史的な事象の把握、歌ことばや歌枕など表現としてパターン化しがちなことばについての理解といった点が、講義の中心となる。京都文化の基盤となった古典を理解するための基本を、この講義では論じることとする。</p>	<p>授業にはできる限り出席してください。 授業の中で多くの書物を紹介しますので、できる限りそれらを読むことに親しんでください。</p>	<p>○ ○</p>	
<p>京都の文学Ⅱ</p>	<p>府</p>	<p>赤瀬 信吾</p>	<p>後</p>	<p>文化は、ことばなくして形成されず、ことばなくして歴史を語ることは不可能である。古典的文化の中核をなすのは古典文学であり、京都文化の基盤となったのは、わが国の古典文学を代表する『古今和歌集』『新古今和歌集』などの和歌文学、また和歌文学をひとつの基盤として展開していった『伊勢物語』『源氏物語』『平家物語』といった物語文学などであり、これらの文学作品は京都に生まれ、京都文化の根幹となった。こうした王朝の和歌や物語を主に取りあげ、作品を読みながら京都文化学の研究の方法を具体的に紹介する。作品に応じて、文献学的な異本研究や、時代ごとにどのように理解され享受されていったか、民俗芸能のように文献とは異なるジャンルでは、どのように享受され理解されていったかという、享受史的研究についても言及する。古典が古典として成立する上で重要な働きをする「異本」というものの生成と展開とを、この講義では論じることとする。</p>	<p>授業にはできる限り出席してください。 授業の中で多くの書物を紹介しますので、できる限りそれらを読むことに親しんでください。</p>	<p>○ ○</p>	
<p>京の意匠</p>	<p>工</p>	<p>並木 誠士</p>	<p>後</p>	<p>明治維新以降、京都の美術工芸界、伝統産業界は、さまざまなかたちで近代化に直面する。そして、美術学校の設置、博覧会の開催、図案教育などにより京都は近代化に対応しようとする。近代の京都を、美術工芸や意匠の側面からできるだけ事例、作例に即して考えてみたい。</p>	<p>自分たちが学びの場として選んだ京都というまちとそのさまざまな活動についての知識を身につけてほしい。京都というと、古いお寺や神社のイメージが強いが、明治時代以降の近代にも多くの魅力的な「意匠」が生み出されているので、そのような近代の京都に触れる機会になればと思う。</p>	<p>○ ○ ○</p>	
<p>京都学事始 —近代京都と 三大学—</p>	<p>機</p>	<p>宗田 好史 ほか</p>	<p>前</p>	<p>京都と深い関わりをもつ歴史ある三つの大学で学ぶ学生さんのために、三大学が誕生した背景、京都の近代を学びます。そして、近代化過程で三大学が果たした役割を知ります。三大学の誕生と共に、京都では近代教育制度が確立し、産業が成長・発展してきました。この過程を学ぶことは、皆さんに身近な様々な町の記憶を再確認することです。そこから現代社会での大学の役割を考え、学生さん、教員それぞれが、京都の地域社会と関わっていく意味を考えていきます。三大学は、京都の産業・経済だけでなく、医療、教育、福祉に深く関わり、京都の企業や施設、社会、行政機関を発展させてきました。それぞれの大学の歴史と京都の町の近代史を学ぶことから、皆さんが暮らす京都の未来を展望してもらおうようにお話しします。その中に、皆さん方自身の将来像を見つけ出してください。 三つの大学から講師の先生方が来られ、テーマに沿って順番に講義していきます。</p>	<p>京都の伝統ある三大学で学ぶ皆さんが、母校に誇りを持つと同時に、各地で活躍する数多くの先輩諸氏を知り、その功績を知るとともに、皆さん自身も先輩に続き、地域社会に貢献しようという意欲を感じてもらえる講義にしたいと思います。</p>	<p>○</p>	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京の産業技術史	工	山田 由希代	後	京都にとって大きな転換期となった「近代」に注目し、染織、陶芸、絵画などの「美術・工芸」がどのような変容をとげて現代にいたっているのかについて、産業との関わりをふまえて講義する。	日本の文化や生活に深くかかわってきた美術・工芸は、伝統産業として長い歴史ある京都の独特な文化を支えてきたといえます。いままたちの暮らしの様々な場面に見ることのできる伝統産業を守り続けた人々の取り組みをふりかえることは、現代の産業振興に役立つ要素の発見にもつながると思われれます。		○	
現代京都論	府	大島 祥子	前	講義では、学び、暮らすまちである「京都」をより深く感じ、考える機会を提供します。京都の現代で起きている事象をテーマごとに考察し、京都の特性と課題を読み解き、未来のまちづくりを考えることを目指します。講義内容は、前半で現代の京都のまちづくりの基盤ともいえる、都市経営や庶民の暮らしやまちとの関わりの変遷(まちづくり史)を学習し、さらにまちづくりの基盤・組織、コミュニティについて学習します。これらをふまえた上で、後半では、テーマごとの事象を読み解きます。行政施策を取り上げるものが多いですが、NPOや民間事業者等が展開する事例、地域で展開される活動なども採用してテーマを深めていきます。	京都の歴史を踏まえ、行政、市民活動、大学、企業など多様なセクターによる京都のまちづくりの基盤を学びます。今まさに京都で起こっている様々なテーマをこれら基盤に基づき紹介します。学び、暮らす京都をより深く理解し、京都により関心を持って欲しいと思います。		○	
医史学	医	八木 聖弥	前	京都における医療の歴史を系統的に講義する。内容は医学理論や技術だけでなく、制度や施設、思想的背景など周辺領域も含む。われわれが疾病に対してどのように対処してきたかをたどることによって、文化としての医の本質を考える。	疾病との闘いは、人類にとって永遠のテーマです。最先端の医療も、過去の積み重ねのうえに立ちます。医療の歴史から未来への指針を学びます。	◎	○	
京都の自然と森林	府	池田 武文 ほか	前	京都府の自然の基本的な構成要素である地形や気候などについて解説し、現存植生との関係や森林の特徴、京都の代表的な植生、植生の変遷や人との関わりによる歴史的な変遷などについて解説する。 さらに、病虫害や鳥獣害、災害などによる森林の衰弱・衰退などについて解説し、京都府の自然がかかえている問題を考える。	京都の究極の自然は森林です。森林のダイナミックな営みを知り、京都の本当の自然を理解しましょう。		○	
京都の農林業	府	寺林 敏ほか	後	わが国の農林業の概要とその中における京都の農林業の特徴とについて、リレー方式で概説する。 一千年以上もの間、都であった歴史的京都ゆえに、伝統的に蓄積されてきた技術と文化に基づく農林業と、新しい技術と生産方式の下で再編成される現代の農林業との2つの側面を明らかにして、長期的視点でわが国と京都の農林業を見つめ直すための教養を身につける講義である。	9人の教員が担当する授業であり、全体像を理解するためには、復習が必要である。 成績評価は、各教員による小テストと出席状況に基づき行われる。		○	
英語で京都	機	金澤 哲	後	概要：学問的な視点から「京都」について考え、英語で発信しましょう。今年はパンフレットを作ります。 目標： (1)「京都」とは何か、学問的に考えてみる。 (2)他者の目から見た京都について意識する。 (3)聞き手を意識した表現を使えるようになる。 ※3回生以上を対象	「京都」とはなにか、観光イメージのレベルを超えて、一緒に考えてみましょう。外国からの視点は大きな手がかりになるはずです。また、すでに学んできた専門教育の考え方も活用してください。自分の考える「京都」について、英語で発信してみませんか。		◎	○